

あおり容疑 初の逮捕 改正法施行後 大分の派遣社員

大分県警別府署は急な割込みなどして前方を走る車の走行を妨害したとして、同県日出町川崎、派遣社員、M容疑者を道交法違反（あおり運転）容疑で逮捕した。あおり運転を厳罰化した6月30日の改正道交法施行後、同容疑での逮捕は全国初とみられる。

逮捕容疑は別府市の国道10号で、同市の男性会社員運転の乗用車と必要な車間距離を保たず、執拗にクラクションを鳴らしたり、前方に急に割り込んだりして走行を妨害。男性に、自身の軽自動車への追突事故を起こさせたとしている。「男性の車にイライラしてやった」と容疑を認めているという。2人に面識はなく、けが人はなかった。

同署によると、あおり運転があったのは約5分間で約3キロに及んだ。改正道交法であおり運転とされる10の違反行為のうち、今回は「車間距離の不保持」「進路変更禁止違反」「警音器（クラクション）使用制限違反」の三つがあったとされている。M容疑者は、車を停止させた後、男性の首や肩をつかみ「包丁で刺すぞ」などと脅したとして、暴行と脅迫の容疑で逮捕、起訴されていた。

コロナ検査キット発売 全行程自動 短時間で判定

鳥栖市藤木町の体外診断用医薬品メーカー・ミズホメディィが、新型コロナウイルスの検査キットを発売した。現状のPCR検査は大型機械で長ければ判定に数日を要するが、小規模なクリニックなどでも約1時間で検査結果が得られる。今後、医療機関などで導入が進めば、身近で、早く検査が受けられる手段として期待される。

厚労省から「迅速な検査方法」として臨床検体を使った検査結果の一致が認められ、公的医療保険の適用が受けられる。

発売したのは、新型コロナウイルス検出試薬のカートリッジと抽出液。2018年に発売した全自動遺伝子解析装置「スマートジーン」と組み合わせて使う。鼻の粘膜やだ液を採取して抽出液と混ぜ、カートリッジに液をたらして解析装置にセットすると、約1時間で陽性か陰性か検査結果がプリントアウトされる。

解析装置スマートジーンは専用の検出試薬でマイコプラズマ肺炎の検査ができ、今後、別の感染症の検出試薬を追加開発していく。今回は、新型コロナウイルス感染症の急激な流行と社会問題化を受け、急遽人材など開発資源を新型コロナウイルス対策に重点的に投入して取り組んだ。

検査キットを発売以降、自治体や高齢者福祉施設などからも多くの問い合わせがあり、外来患者用だけでなく、病院内やスポーツチーム内の日常検査などのニーズもあるという。同社の担当者は「検査結果を待つ間の不安感を減らし、万一感染していた場合の次の感染者防止にも貢献できれば」と話す。



院内感染防止策 安心マーク発行 日医が医療機関に

日本医師会（日医）は、新型コロナウイルスの適切な感染防止対策を実施している医療機関に、「みんなで安心マーク」の発行を始めた。感染を恐れてかかりつけ医などへの受診を控えたり、先延ばししたりする傾向が見られ、日医は「患者の不安を減らし、少しでも安心して受診してもらえるようにしたい」としている。

安心マークは

- (1) 発熱患者を診察する際は動線を分ける
- (2) 毎日の検温など職員の健康管理をする
- (3) 患者同士が一定の距離を保てるようにする

など、日医が作成した9項目のチェックリストを全て実施している医療機関に配布する。日医に加入していない医療機関でも使用できる。

車脱出ハンマー準備を 国交省呼び掛け 大雨時の被害防止

台風シーズンを前に、国土交通省は、水没した車の窓ガラスを割る脱出用ハンマーを車に備えるよう、自動車ディーラーなどを通じてドライバーらに呼びかけている。

国交省によると、車は安全面から窓ガラスの強度が高く、素手で割るのは難しいうえ、水没すると水圧でドアが開かなくなる。このため、道路の冠水や川への転落で車から脱出できずに死亡する人が後を絶たない。昨年10月の台風19号では、犠牲者の約3割が車中で亡くなっていた。

脱出用ハンマーは先がとがっており、力のない人でも窓ガラスを割ることができる。カー用品店やホームセンターで3000円以内で購入できる。中には窓ガラスを壊せない粗悪品があるといい、国交省は年度内に流通品の性能を調べ、結果を公表する。

フロントガラスは、特殊フィルムで2枚のガラスを合わせた分厚い構造のためハンマーでも割れない。ドアや車体後部にこうしたガラスを使う車種もあり、事前の確認を求めている。

原鶴温泉 客足回復へ 買い物券

新型コロナウイルスの感染拡大や九州豪雨の影響を受けた朝倉市の原鶴温泉旅館協同組合は、買い物券の配布やタクシーのキャンペーンでにぎわいを取り戻そうと取り組みを進めている。

ウイルスの影響で長期間休業した旅館・ホテルは7月1日からほとんどが営業を再開。その後の豪雨で一部に被害が出たが、復旧した。地域内での消費を促すため、協同組合は市内の物産館「道の駅原鶴ファームステーションバサロ」「三連水車の里あさくら」と共同で宿泊客1組に500円の買い物券を贈るサービスを始めた。発行枚数は5000枚、両店舗で10月31日まで使用できる。

